

ビジネスに活用できる名文句エッセンス

世界の名文句

ビジネスライフ編



自由国民社

意志と行動 について



〔使い方の一例〕大逆事件の首謀者とみなされて幸徳秋水が処刑されたとき、作家徳富蘆花は事件直後「幸徳君らは時の政府に謀叛人と見なされて殺された。が、謀叛を恐れてはならぬ。みずから謀叛人となるを恐れてはならぬ。新しいものは常に謀叛である」と公開の場で演説しました。当時の情況において蘆花の発言は、きわめて勇気のあるものであったばかりでなく、青年の胸に矢のごとき鋭きで「青年よ勇気をもて」と呼びかけたものであります。

〔行為と行動〕

ことのはじめにあたって、結果がどうなるかを つねに考えよ。——ウインバー

* つねに行為の動機のみを重んじて、帰着する結果を思ふな。報酬への期待をバネとするひとびとの一人となるな。——ベートーヴェン

* どんなことをするにも、そのことの状態、その性質、それとそれ以外のこととのつながりがわか

らないならば、そのことの法則もわからず、それを、どういうふうによればよいかもわからず、また、それをりっぱになしとげることもしできない。

——毛沢東

* われわれは、問題を全面的にみることを習得しなければならず、事物の正面をみるだけでなく、その反面をもみなければならぬ。一定の条件のもとでは、悪いことでも良い結果をうみだすし、良いことでも悪い結果をうみだす。——毛沢東

* 汝の活動、ひとり汝の活動のみが、汝の価値を決定す。——フィヒテ

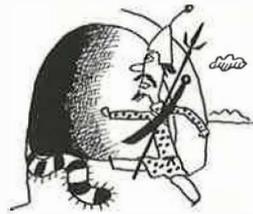
* 真知は即ち行をなす所以、行なわざれば知というに足らず。——王守仁

* 精神一到何事か成らざるらん。——朱子

* 虎穴に入らずんば虎子を得ず。——「後漢書」

* 人を相手にせず、天を相手にせよ。天を相手にして己を尽し、人をとがめず、わが誠の足らざるを尋ねべし。——西郷隆盛

* 命も要らず名も要らず、官位も要らぬ人は始末



に困るものなり。この始末に困る人ならぬは、艱難を共にして国家の大業を成し得ざるものなり。

——西郷隆盛

* われわれは、ことばではなしに、行為を見守らなければならぬ。そしてまた、われわれも、ことばではなくて、行為で示さなければならぬ。

——ジョン・ケネディ

* 認識は実践にはじまり、実践をつうじて理論的認識に達すると、ふたたび実践にもどらなければならぬ。——毛沢東

* 実践、認識、再実践、再認識という形式が循環往復して、無限にくりかえされ、そして、各循環ごとに実践と認識の内容が一段と高い段階にすすむ。——毛沢東

聴くことを多くし語ることを少なくし行ふところに力を注ぐべし。——成瀬仁蔵

事を行なうにあたって、いつから始めようかなどと考えているときには、すでに遅れをとっているのである。——クインティリアヌス

この地上ではなすべき事が実に多い。急げ！——ベードーヴェン

われわれがいくつかの危険に気づいているというので、動かずにじっとしていることを自己に課するならとんでもないことである。——トリアツチ

しつかりやれ。立って、突撃、風車に突撃——早く行け！——ゴゴリ

悲しみのための唯一の治療は、何かをすることだ。——ルイス

知るは易く行なうは難し。——中国の諺
知るは難く行なうは易し。——孫子
知るは難く行なうもまた易からず。——胡適
知るは難く行なうは難し。——魯迅

其の疾きこと風の如く、其の徐かなること林の如し。侵掠火の如く、動かざること山の如し。——孫子

確信をもつこと、いや確信をもっているかのように行動せよ。——ゴッホ

人間の行動にも潮時がある。満潮に乗じてことを行なえば首尾よく運ぶ。——シェークスピア



断じて行えば、鬼神も之を避く。——「史記」
(決心して断行すれば、それをさまたげる障害はない)

意志も人間が行動する瞬間からしかならずを知らない。それは航行の場合でよくわかるとおりでである。動かないでいる船は操縦できない。一つの動きによって操縦可能な力が生じて初めて舵もきくようになる。——モロア

「行動する」ためにはいかに多くのことに無知でなければならぬことか！——ヴァレリー

賢明な思考よりも、慎重な行動が重大である。——キケロ

知っていることすべてを語るな。きいたことすべてを信ずるな。できることすべてをなすな。——シェークスピア



一人のごとくせよ。——イギリスの諺

人間をうごかす二つのは、恐怖と利益である。——ナポレオン

善行は砂に書かれる。悪行は岩に彫りつけられる。——ポーランドの諺

〔決心・決意〕

決断——なすべきことをなそうと決心せよ。いったん決心したことはかならず実行にうつせ。

——フランクリン

* およそ事業をするのに

必要なのは、する力ではなくて、それをやりとげるといふ決心である。

——リットン

*

決心する前に、完全に見通しをつけようとする者は、決心することはできない。——アミエル

*

志を立つるは大にして高きを欲し、小にして低きを欲せず。——貝原益軒

*

今日われわれは、ニュー・フロンティアのふち



に立っている。——それは一九六〇年代のフロン

ティアであり、いまだに果たされていない希望とともに、脅威の可能性をはらんだフロンティアである。——ジョン・ケネディ

*

二流の人物がときに異常な決意を固めて成功することがあるが、別に彼らがすぐれた人物だからではなく、不安な気持ちから抜け出ようと努めた結果なのである。——モンテルラン

*

諸君の決意はあまり前もってしゃべるな。——セルデン

セルデン

〔知識・知恵〕

真の知恵は、常に人間を落ち着かせ、正しい釣合いを基礎に事物を観察させる。——林語堂

*

わたしは見ました、知りました、信じました、

目がさめました。——コルネイユ

*

是を是とし、非を非とす、これを知という。

——荀子

*

人間はあまり知識が少なくても多くても、生存することはできない。——ジンメル

*

知識は、われわれが天に飛翔する翼である。

——シェークスピア

*

行為の伴わない知識

は、蜜のない蜜蜂のよう

なものだ。——ヘルダー

*

知識欲は、普遍的なもの

のへ向かうときには学究心と呼ばれ、個別的なものへ向かうときには好奇心と呼ばれる。——シヨ



——ベンハウエル

*

知識は経験の娘である。——ダ・ヴィンチ

*

知識を求むるは、すべての信者にとりて神の掟なり。されど、価値なき者に知識を伝うる者は、豚の頭に真珠、宝石、黄金をかくるものなり。

——マホメット

*

想像力は、知識よりもっと大切である。——ア

インシュタイン

*

才気は多くの無用な思想を持つことにあり、良識は必要な知識をよく身につけることにある。

——ジューベール

*

知は目の如し、百歩の外を見て、^{まっげ} 睫を見る能わず。——韓非子

未来の人間のために働くことをやめよ！ 骨折り仕事はいっさいやめて創造せよ！ 創造は遊びであり、遊びは神聖なのだから。——ヘンリー・ミラー

〔目的・手段〕

目的は手段を正当化する。——イギリスの諺

* われわれは、目的が手段を正当化するという人間である。だが、前言を和らげるために、目的を限定するのは手段である、ということ必ずい添える。——サルトル

* 目的は必ずしも達成されるために設定されているわけではなく、照準点とか方位点として役立つためである。——ジューベール

* あるのは目標だけだ。道はない。われわれが道

* 天は高く、皇帝は遠い。——ロシアの諺

〔成功・失敗〕

自分の心を隠せない人は、何事にも大成しないし、成功しない。——カーライル

* 創業は易く、守成は難し。——「十八史略」

* 善く作す者は、必ずしも善くなさず。——「史記・樂毅伝」

（思いつきのよいひとが、その仕事を完成させられるとはかぎらないとの意）

* 成功とは大胆不敵な向う見ずの子どもである。——ディズレーリ



生きる技術とは、一つの攻撃目標を選び、そこに力を集中することにある。——モロア

* ニヒリズムは何を意味するか？——最高至上の諸価値が価値たることを失うということ。目標が欠けているのだ。「何のために？」という問いに対する答が欠けているのだ。——ニーチェ

* 私は太平洋の橋になりたい。——新渡部稲造（札幌農学校から東大文学部にすすみ、「何のために英文学をやるか」と問われて答えた言葉）

* 成功するには二つの道しかない。一つは自分自身の勤勉、一つは他人の愚かさ。——ラ・ブリュイエール

* この世で成功するには、馬鹿のように見えて、その実、利口でなければならぬ。——モンテスキュー

* 神を信ずるためには、神がなければならぬ。成功を望むならば、まず目的を決めなければならぬ。——ドストエフスキ

* 成功は結果であって目的ではない。——フロベール

* 成功の秘訣は目的の一定不変にある。——スマイルズ

とよんでいるものは、ためらいにほかならない。——カフカ

* 鹿を逐う者は兎を顧みず。——淮南子

* 成功の秘訣を問うな。

なすべきひとつひとつに
全力を尽くせ。——ワナ
メーカー

*
メーカー

成功に何のトリックも

ない。私は私に与えられた仕事に全力を尽くして
来ただけだ。——カーネギー



* 成功に秘訣というものがあれば、それは他人の

立場を理解し、自分の立場と同時に、他人の立場
からも物ごとを見ることのできる能力である。

——ヘンリー・フォード

* 為せば成る。為さねば成らぬ成る業を 成りぬ

と捨つる人のはかなき ——武田信玄

*

道は近くても行かなければ到達せず、事は小さ

くても行なわなければ成就しない。——中国の諺

*

一将功成りて、万骨枯

る。——曹松

*

失敗しない者は、つね

に何事もなしない。

——フェルプス

*

失敗に達人というものはない。ひとほだれでも

失敗の前には凡人である。——プーシキン

*

失敗は資本の欠乏よりはエネルギーの欠乏から

しばしば起こる。——ウェプスター

*

まちがったことをして、それに苦しむことので
きない人間くらい、度々まちがったことをする人

小節を規る者は栄名を成す能わず。小恥を悪む
者は大功を立つる能わず。——「史記」
(礼の末節や、わずかの恥にこだわる者は名誉も成功
も望めない)

*

成功して満足するのではない。満足していたか
ら成功したのである。——アラン

*

ひとが軽蔑する事柄に成功することはりっぱな
ことだ。それには、他人と自分とに打ちかたなけ
ればならないからだ。——モンテルラン

*

人生における成功の秘訣は、成功しなかった
人々だけしか知らない。——コリンズ

*

私たちのつとめは成功ではない。失敗にも負け
ずさらに進むことである。——ステブンソン

*

間はない。——ラ・ロシュフコー

*

失敗は、落胆の原因ではなく、新鮮な刺激であ
る。——サウザン

*

失敗するは人間なり、それを寛容するは神な
り。——ポーブ

*

わたしの最大の光栄は、一度も失敗しないこと
ではなく、倒れることに起きるところにある。

——ゴールドスミス

*

私の現在が成功というなら、私の過去はみんな
失敗が土台づくりをしていることにある。仕事は
全部失敗の連続である。——本田宗一郎

*

成功の一瞬は、失敗の数か年をつぐなう。——
ブラウニング

見えるからだ。——スコット

* 千羊も独虎を^{よせ}押ぐ能わず、万雀も一鷹に^{あた}抵る能わず。——抱朴子
(弱い者が、いかに数多くいても役にたたない)

* 最も強い者の理屈がいつも、一番よいとされるのだ。——ラ・フォンテーヌ

* 羊が何匹いるかということは、オオカミには問題にならない。——ヴェルギリウス

* 弱い人は、率直であり得ない。——ラ・ロシュフコー

* 弱いものを救い上げるだけでは十分ではない。その後も支えてやらなければならない。——シェークスピア

〔英雄〕

英雄とは自分のできることをした人のことだ。ところが凡人はそのできることをしないで、できないしなない事を望んでばかりいる。——ロマン・ラン

* 英雄でなければ英雄を知ることにはできない。

——ゲーテ

* 大衆こそ真の英雄である。——毛沢東



生命を張って闘っている独りの婦人。これこそ——ヘッセ

* 役割が英雄をさがしている。——ナセル

〔天才〕

真の天才は、あらかじめ一定の軌道にのせて描くことはできない。その軌道はあらゆる批判的評価のそとにある。——ハイネ

* 自分自身の思想を信じ、自分にとって真実であるものを信じ、自分のところで万人の真実を信じるもの、これが天才である。——エマーソン

* 天才とは九十九パーセントの発汗であり、残り

のパーセントが靈感である。——エジソン



* 天才は先例なしに正しく行動する能力だ——最初に正しいことをなす力だ。——ハバード

見えるからだ。——スコット

* 千羊も独虎を^{よせ}押ぐ能わず、万雀も一鷹に^{あた}抵る能わず。——抱朴子
(弱い者が、いかに数多くいても役にたたない)

* 最も強い者の理屈がいつも、一番よいとされるのだ。——ラ・フォンテーヌ

* 羊が何匹いるかということは、オオカミには問題にならない。——ヴェルギリウス

* 弱い人は、率直であり得ない。——ラ・ロシュフコー

* 弱いものを救い上げるだけでは十分ではない。その後も支えてやらなければならない。——シェークスピア

* 個人の事業が卓越するような時代は去ったように思う。国民や党派や集団みずからが近代の英雄である。——ハイネ

* 英雄人を欺く。——李攀龍

* 英雄は普通のひとより勇気があるのではなく、ただ五分間ほど勇気が長続きするだけである。——エマーソン

* どうか英雄とならぬように——英雄の志を起さぬように力のないわたしをお守り下さいまし。——芥川龍之介

* 偉大であることは誤解されていることである。——エマーソン

人の性格 について



〔使い方の一例〕ロシアの作家ドストエフスキーは「お前の部屋を見ることがいい。そうすれば、お前の性格を言いあててみせよう」といっておりますが、まさに「居」はその人を表わすものであります。今日、新装なったお宅を拝見させていただき、その趣味の深さ、個性のかがやきに深くうたれました。そして彼らが渾然一体となって、この「居」を作っていることを知りました。まさにあなたの「城」であります。まことにうらやましい限りと申し述べざるほかありません。

〔人間とは〕

人間には、すべて、人間の条件のすべての印が
ついている。——モンテーニュ

人間は道具を使う動物で
ある。——カールライル

もしわれわれを無意識
の願望の動きをもとにし
て判断するならば、われ



われ自身もまた、まさしく原始人のごとく人殺し
の群れである。——フロイト

この世の中に、人間ほど凶悪な動物はいない。
オオカミは共食いをしないが、人間は人間を生き
ながらにして丸呑みにする。——ガルシン

人間の野獣性に、虚偽の、病的な理想主義の衣
をさせるよりも、率直に野獣であるほうが人間に
とって危険が少ないだろう。——ロマン・ロラン

を感じる人間は、常に昏迷の危機にさらされる。

——ゲーテ

想像と理念、法則と仮説、この区別を理解する
ことのできぬ人間はみじめである。——ゲーテ

人間の意識が人間の存在をきめるのではなく、
反対に人間の社会的存在が人間の意識を決めるの
である。——マルクス



人間が根源的であれば
あるほど、不安はそれだ
け深い。——キェルケゴ
ール

何と多くの人間が、罪のない者たちの血と命と
で生きていることか！ ——ラ・ロシュフコー

人間だけが赤面できる動物である。あるいはそ
うする必要のある動物である。——マーク・トウェ
ーン

生まれるのはやさしいが、人となるのはむずか
しい。——フィリピン人の諺

己の実力の不十分なことを知ることこそ、己の
実力の充実である。——アウグスチヌス

人の常情、敗れたる者は天の命を称して歎じ、
成れる者は己の力を説きて誇る。——幸田露伴

あまりに多く要求し、複雑錯綜したものに喜び

人間の生活力の強さ！ 人間はどんなことにも
すぐ慣れる動物である。私はこれこそ人間に対す
る最上の定義であると思う。——ドストエフスキー

職業生活 について



「使い方の一例」「大変な仕事だと思っても、まず、とりかかってもらなさい。仕事に手をつけた、それで半分の仕事は終わってしまったのです」この言葉はローマの詩人アウソニスのことばであります。仕事に対する要諦は直ぐ実行することです。「多くの仕事をする早道は、今すぐただ一つの仕事をすることである」(スマイル)。「明日の朝しようなどと言ってはならぬ。朝が仕事を仕上げてもってきてくれるわけではない」(ギリシアの司教クリソストムス)

〔事業〕

事業の目的について、正しい定義はただ一つしかない。それは顧客の想像である。——ドラッカ

人の行く裏に道あり、
その道に徹すれば、必ず
道はひらける。——市村清



今日、議会で、わが社が市場の九六パーセントを支配していると教えられた。諸君！ 出かけて行ってあとの四パーセントもとってしまえ。——サーノフ

我等もし事業をなさんと欲せば、必ずまづこれがために仆るの決心なかるべからず。——新島襄

一個人がいかに富んでも、社会全体が貧乏であ

ったら、その人の幸福は保障されない。その事業が個人を利するだけでなく、多数社会を利してゆくの でなければ、決して正しい商売とはいえない。——渋沢栄一

予は困難なる仕事を企図するも、困難なくして至上に成就さるるものなし。——オヴィディウス

隗より始めよ。——「戦国策」

(遠大な事業を行うには卑近なことからは始めよ、という意)

多国籍企業は、国境をこえた純粋な経済圏をつくり出し、しかも国家の主権と現地の文化とを尊重しうる、現存する唯一の機構である。——ドラッカー

事業は、素姓や言葉づかいじゃない。自分で創

りだすものだ。世のなかで、もつとも民主主義的なものが、事業なんだよ。——スタインベック



ビジネスの世界には静止した状態はありえない。それはつねに移り変わる世界である。——ポール・ゲッティ

野鴨は馴らすことはできない。しかし馴らした鴨を野生に返すことはできない。もう一つ、馴らされた鴨はもはやどこへも飛んでいくことはできない。ビジネスには野鴨が必要なのである。——ワトソン

〔取引〕

損失は比較的なものであるのに、想像がそれを絶対的なものにしてしまう。——パスカル

人間は、彼が日常従事している労働のうちに、彼の世界観の基礎を求めなくてはならない。——ペスタロッチ

* 勤勉にとつて、堅すぎる壁はなく、勇氣にとつて、近寄りがたい深淵はない。——ノヴァーリス

* 節制と労働とは、人間にとつて真実なる二人の医者である。——ルソー

* 運命は神の考えるものだ。人間は人間らしく働けばそれで結構だ。——夏目漱石

* 金持でも貧乏人でも、強い者でも弱い者でも、遊んで暮らしている市民はみんな詐欺師だ。——ルソー

* 眠っている巨人よりも、働いている小人の方が

者にとつて一つの原則的な問題であり、また團結を保持する上での一つの重要な条件でもある。

——毛沢東

* わからないことや知らないことは、下級のものにきくようにし、かるがるしく賛成または反対の意をしめしてはならない。——毛沢東

* 強将の下に弱兵なし。——蘇軾

* 運動は上げ潮のようなもので、活動家は大地に打ちこまれたクイのようなものだ。このクイだけが潮がひくとき、泥が流されないようにささえることができる。——ホー・チ・ミン

* 兵卒は問題ではない。重要なことは、誰が指揮をとるかである。——ドゴール

* 立派だ。——シエークスピア

* 月夜に夜なべはせぬが損、稼ぎに追いつく貧乏はなし。——近松門左衛門

* 何も生産することを知らぬひとびとにだけ、何も存在しないのだ。——ゲーテ

〔リーダー〕

* 本当のリーダーは人をリードする必要はない。ただ道を示すだけでよい。——ヘンリー・ミラー

* 人に従うことを知らない者は、良き指導者になりえない。——アリストテレス

* 上苛ミカなれば即ち下聴ゲかず。——管子

* 極力放漫をいましめることである。これは指導

目下の者たちに少しも気がねしない人間にかぎって、目上の者には、ひどく気がねするものだ。——ツルゲーネフ

* 人は山の頂上に登ることができるが、そこに長いこと住むわけにはいかない。——ショー

* 馬を相するに輿を以てし、士を相するに居を以てす。——「孔子家語」

（車を曳かせてみれば馬のよしあしがわかる。人物の見分けは、地位についたときの言動によつてつく）



* 自分の部下にどういふことをしたいかを聞いたうえで、その通りどんなやらせれば満足な運営ができるという考え方は、民主主義の幼稚園で

ある。——アーネスト・ティール

ひとを使うは苦を使う。——竹田出雲

良弓は張り難し、良馬は乗り難し。——墨子

(使う人がすぐれていてこそはじめて強弓であり良馬であるのだ。才能ある者を生かすも殺すも使う人しだいだ)

〔褒賞〕

国家が貧しくて貧弱な褒美しか出せないとしても、賞を出すことをためらってはならない。どんなささやかな褒美でも、善行に対する表彰としてあたえられるなら、それを受け取る側にとつては、荣誉ある最大の贈り物として重んぜられることであろう。——マキアベリ

僅かの人間で決めた賞なんて、そうたいした名

誉でない。私のほしいのは大衆の喝采だ。大衆が私の仕事を賞讃してくれたならば、それで十分だ。——チャップリン

ぼくは、あの評論を「嬉しい」と思う。感謝している。人間にとつて、ほめられることは必要なのだろう。——ゴッホ

〔規律・秩序〕

私たちは今では規律のなかにどのような美と喜びがあるかを知っている。なぜなら、私たちの規律——それは自由な行動の法則であつて、圧制者の勝手気ままな法則ではないのだから。——マカレンコ

規律——すべての物は場所を定めておき、すべての仕事は時間をきめてなすようにせよ。——フランクリン

良兵の少数は多兵にまさる。——クロムウェル

規律は、宗教の儀式に似ている。ばからしいように見えても、それが人間をつくるのだ。——サン・テクジュペリ

歌留多の札一枚がなくなつてさえ、この世界の秩序には、何かとりかへしのつかない罅が入る。

——三島由紀夫

秩序、秩序だけが、まさしく自由をつくりだす。無秩序は隷属をつくりだす。——ペギー

おお秩序、物質的秩序、理的秩序、倫理的秩序、なんという気休め、力、経済であろうか。自分の行先、自分の欲するものを知っていることが秩序である。——アミエル

〔組織〕

巨大な組織はルーズな組織である。否、むしろ非組織的であるとさえいえる。——ギルバート・チエスタートン

耕す者がその田をもつ(耕者有其田)。——孫文



筐かまきは以て屋を持つ可からず——淮南子

(小さな簞で屋根をささえ
ることはできない。適材を
適所につかうのが当然のこと)

自分と意見のちがう同志たちと団結し、いっしょに仕事をしていくように注意することである。

——毛沢東

* 今日の組織は、現在のフォード・モータ会社を含めて、本質的には「知識の組織」である。それは数百の、ときには数千の特別化した知識を生産的ならしめるために存在している。——ドラッカー

* 全体というものは一人の拡大された影である。——エマーソン



* 全体は個人のために、個人は全体のために存在する。——デュマ

* 個人の時代は過ぎ去った。集団は自己の歩む世界には無限の力がある。——マッジン

* 人城を頼らば城人を捨てん。——織田信長

子と小人は両立しがたい

* 「口くちとなるも牛ぎゅう後ごとなる勿れ。——「史記」

* (小さい団体でもその長になれ。大きな団体のしりに付き従うよりずっとましである)

* 今日では大多数の人々がその生活の機会と就業の場を組織体に依存している。大組織は現代社会において人間の環境になってしまっている。——ドラッカー

〔退屈〕

* 一年じゅうが、ただ遊ぶだけの休暇だったら、遊ぶことは働くことと同様に退屈だろう。——シエークスピア

* 自ら退屈する人間は、退屈な人間より軽蔑すべき存在である。——バトラ

* 形式に希望をおくのは迷信である。だが、それに服従しようとしなないのは高慢である。——パスカル

* わが社には組織はない。今日の組織は明日の組織ではなく、明日の組織も明後日はどうなるかわからない。だから組織づくりといえば、毎日が組織づくりである。いや毎日、会社そのものをつくりついでいる。——井深 大

* 君きみ臣みを扱つかぶのみに非ず、臣みも亦君きみを扱つかぶ。——「後漢書」

* (君子のほうだけが人材を選んで登用しているのではない。臣下のほうも仕える人を選んでている)

* 氷炭器を同じうせず——「塩鉄論」

* (氷と炭では、ひとつ器にいるわけにはいかない。君

* 退屈はすべてを奪う。自殺する勇氣さえも奪うのだ。——スタンダール

* 退屈するということは、教育の最も悪い罪である。——ヘルバルト

* 退屈は王者風のものだ。それは気高い属性である。退屈しようと思えば、誰でもできるといふわけのものではないからだ。——アラン

* 退屈な男になる秘訣は、何もかもしゃべることだ。——ヴォルテール

* 退屈は、絶望の腹違いの姉妹である。——エツシエンバッハ

* 川は川床を忘れない。
——オーストラリアの諺

* 必要は老婆に跳ぶことを教える。——ドイツの諺



* なめてみないうちは塩を買うな。——コンゴの諺

諺

* 尻は主人に「立て！」とは言わない。しかし主人が立つと、尻はついていく。——セネガルの諺

* 乗りかけた舟には、ためらわずに乗ってしまえ。——ツルゲーネフ

* 往く者は追わず、来る者は拒まず。——孟子

* 高い山に上らない者には、平野がわからない。

——中国の諺

* 窓からでは、全世界はけっして見渡せない。

——スペインの諺

* 自分の腕前を隠す心得があることこそ、大きな腕前である。——ラ・ロシュフコー

* 暖かさを好む者は、煙を我慢しなければならぬ。——ロシアの諺

* けわしい丘に登るためには、最初にゆっくり歩くことが必要である。——シェークスピア

* 終身道を譲る者も百歩を枉げず。——「唐書」(たとえ、つねにひとに道を譲ったとしても一生の間

では百歩にもならない)

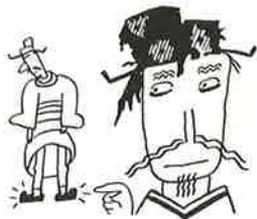
* 形直くして影曲がらず。——列子

* 正しく生きるとは、銀河系を自らのなかに意識して、これに応じて行くことである。——宮沢賢治

* 木強ければ即ち折る。——「淮南子」

* 冠蔽るといえども必ず首に加う。履新といえども必ず足に関す。——「史記」

(冠はこわれていても頭へのせ、くつは新しくても足にはくものである。上は上、下は下の区別は必ずなくてはいけないの意)



* 一つの扉が開くと、もう一つが閉まる。——ス

ペインの諺

* 生まれないうきから、子どもを届け出てはいけない。——ノルウェーの諺

* ぶよはどこを飛んでも気づかれないが、鷲は衆人に注目される。——シェークスピア

* 我を牛と呼べば、これを牛となし、我を馬と呼べば、これを馬となす。——莊子

* 苦勞人というのはややこしい苦境を優雅に切り抜ける人のことである。——モーム

* 郷に入っては郷に従え。——莊子

良葉は口に苦く、出る杭は打たるる習い。——
平賀源内

* 賢明に世俗的であれ、世俗的に賢明であるな。

——クワールズ

* 人を射んとせば、先ず

馬を射よ。——杜甫

(対象としている人が頼りにしているものから攻略していけば、その人を屈伏させられる)



* 唐は唐、日本は日本、昔は昔、今は今なり。

——平賀源内

* 今日の一つは明日の二つにまざる。——フランクリン

* 備えあれば患なし。——「心書」

* 水大なれば魚多し。——王充

* 騏驎の踴躍は、駄馬の安歩に如かず。——

「史記」

(ずばぬけた駿馬でも、ぐずぐずしていればゆっくりと歩きつづける駄馬に及ばない)

* 足を削りて履に適し、頭を殺いで冠に便す。

——淮南子

(足に合わせてくつをつくる、のがあたりまえ。根本のことを忘れていいる)

* 木に縁りて魚を求めむるがごとし。——孟子

* 跛つ者は立たず、跨ぐ者は行かず。——老子

(高く見せようと背伸びしても、人より早く行こうとさらに大股に歩くのも、どだい無理なことで永くは続かない)

* 水車は流れてしまった水で粉をひくことはできない。——イギリスの諺

* 無用の用。——莊子

(無用とされているものが、かえって大用をなすことを知れ)

* 流水腐らず、戸枢蠹まず。——「呂氏春秋」

(流水も戸も常に動いている。沈滞したときには腐敗が生ずる)

* 源清ければ即ち流れ清し。——荀子

* 瓜田に履を納れず、李下に冠を正さず。——

* 青山元動ぜず、浮雲の去来に任す。——「五燈会元」
(山は、雲が去来しても静かにして動じない。そのようにあれ)



「文選」
(脱げた靴を瓜畑ではいていければ、瓜を盗むかと疑われる。嫌疑を受ける行為は避けるがよい)

* 寸を誣げて、尺を伸

ぶ。——淮南子

(小事を譲って大事をおこなう)

* 体を暖める火は、体を焼くこともできる。——

先入観は無知の子どもに等しい。——ハズリッ
ト

〔生活〕

生活の收穫は生活——人間がどんなに彼の認識
で背伸びをしようと、またどんなに客観的になっ
たつもりでも、結局、彼が得るところのものは、
彼自身の伝記のほかには何も無い。——ニーチェ

* 目的のない生活は味け

なく、目的のある生活は
わずらいだ。——ヘッセ

*

世界の半分は、他の半
分がどんな生活をしてい
るか知らない。——ハ
ーバート

*



生活はすべて次の二つから成り立っている。し
たいけれど、できない。できるけど、したくな
い。——ゲーテ

*

愛を優しい力と見くびったところから生活の誤
謬は始まる。——有島武郎

*

生活とは、つまり習慣の織物である。——アミ
エル

〔災い〕

晴天にも驟雨がいつ来るかわからない。歓喜の
時にも災禍がすぐ来ると覚悟しなければならな
い。——シラー

*

我ら神より福祉を享くるなれば災禍をも亦受け
ざるを得んや。——「旧約聖書」

*

山本常朝

*

千日の稽古を鍛とし、万日の稽古を練とす。

宮本武蔵

*

今日一字を覚え、明日
一字を覚え、久しければ
すなわち博学となり、今
日一善を行い、明日一善
を行い、積もれば大徳と
なる。怠るべからず。

中井竹山

*

修行の道に限りあらざれば、至りて止まる奥も
あらじ。——上島鬼貫

*

若し人百歳なるも、最上の法を見ざれば、一日
生きて最上の法を見るに若かず。——「法句経」

禍は敵を軽んずるより大なるはなし。——老子

*

災難は人間の真の試金石である。——フレッチ
ャー

*

災難にあふ時節には災難にあふがよく候。死ぬ
る時節には死ぬがよく候——良寛

〔修行〕

人の悟りをうる、水に月のやどるがごとし、月
ぬれず、水やぶれず。——道元

*

修行中は馬鹿にならなければ上達しない。
馬鹿という言葉を使い換えれば、ものにこだわら
ない素直なことである。理屈っぽいのが一番修行
のさまたげになる。——宮城道雄

*

修行に於いてはこれ迄成就といふ事なし。——



中井竹山

*

修行の道に限りあらざれば、至りて止まる奥も
あらじ。——上島鬼貫

*

若し人百歳なるも、最上の法を見ざれば、一日
生きて最上の法を見るに若かず。——「法句経」

たいていのひとびとは、運命に過度の要求をすることによって、みずから不満の種をつくっている。——フンボルト

* われわれは運命によって強く叩かれたり、柔らく叩かれたりするが、それはわれわれの素質の問題なのである。——エッセンバッハ



* 平らな道でも、つまづくことがある。人間の運命もそうしたものである。神以外にだれも真実を知るものはいないのだから。——チエーホフ

* 運命というものは、他のことにおいてもそうであるが、特に戦争においては、最大の役割を演ずるものであり、それは小さな原因から決定的な変

化を引き起こすのだ。——カエサル

* 人間は運命のまにまに身をまかせていくことはできても、これにかかずらうことはできない。また、人間は運命という糸を織りなしていくことはできても、これをひきちぎることはできない。——マキアベリ

* 運命をきけつつ運命にあこがれる。——リルケ

* 人間の運命は人間の手中にある。——サルトル

* 運命がカードを混ぜ、われわれが勝負する。

——シヨーペンハウエル

* おお運命よ。運命よ。みなが汝を浮気者と言

う。——シェークスピア

向うで何かを跳び越えたものがある。それがこちらで何かを跳び越えたものと、偶然のやうに符号する。——三島由紀夫

* 運命に向かって喚き、罵って何の利益があるか、運命はつんばである。——エウリピデス

* 蛇は他の蛇を呑まなければ龍たることはできない。——ベーコン

〔チャンス〕

人生はチャンスと変化に富んでいる。そして最も栄えているときに、人は大きな不幸に見舞われるものだ。——アリストテレス

* 好機に出会わない人間など一人もない。それを捕らええなかった、というまでだ。——カーネギ



* 風波はつねに優秀な航海者に味方する。——ギボン

* みずから助けられない者は、機会も力を貸してく

れない。——ソフォクレス

* もし機会を見つけれないときは、自分で機会をつくれ。——スマイルズ

* 大きな仕事を企てる場合には、機会をつくり出すことよりも、目の機会を利用するように努めるべきである。——ラ・ロシュフコー

* 機会はおそらくサインすることを欲しなかったときの神の署名であろう。——アナトール・フラン

ス

* 賢明な人は、好機を幸運につなげることができ
る。——トーマス・フラー

* 進路を開拓しようとするすべての人が第一に要
求するものは、我に機会を与えよ、である。——
ワナメーカー

* 撃つべきの機は、その間に髪を容れず。——頼
山陽

* これは信じてもらいたい。幸運などは来ないの
だと思っている人が運命を征服することを。——
マシュー・アーノルド

* 機会が二度君の扉をたたくなどとは考えるな。
——シャンフォール

く、目前に痛き刺激物あり、慾あれども銭なく、
望みあれども縁遠し、よし突貫して此逆境を出で
んと決したり。——幸田露伴

* 順境の美德は節度である。逆境の美德は忍耐で
ある。——ベーコン

* 天を怨まず、人も咎めず。——孔子

* よし今度も立派に乗り越えて見せるぞ、朝の来
ない夜はないのだから……。——吉川英治

* 大海の怒濤の中に落ちた磁石のように、人間の
忍耐は、逆境の中にあってもすぐに見分けがつか
く。——フリードリッヒ・ハウク

* 逆境にあつて、幸福の日を思い起こすにまさる
悲しみはない。——ゲーテ

* 自分一人で百点を取ろうとすると時期を失す

る。——宮村武夫



* 通常、人間は機会さえ
あれば悪いことをするも
のである。——アリスト
テレス

* チャンスは泥棒をつくるだけではない。それは
偉大な人間もつくる。——リヒテンブルク

* いかなる財産も幸福も、ちょっとしたチャンス
で手に入れたものである。——シヨープンハウエル

〔逆境〕

身には疾あり、胸には愁あり、悪因縁は逐えど
も去らず、未来に楽しき到達点の認めらるるな

* 人間が困っている問題を解決するためには、も
う一組の新しい問題が必要である。——ディズニ



* 干潮は干潮につづかな
い。間に満潮がある。

——スーダンの諺

* あらゆる逆境のうち最
も哀れな種類の不運は、
今まで幸福であったということである。——ボエ
ティウス

* 人間というものは、逆境におちいると悩む。そ
のくせ万事順調にいつても退屈するものである。

——マキアベリ

〔経験〕

経験は思想の子であり、思想は行動の子である。書物から人間を学ぶことはできない。——デイスレーリ

* 百聞は一見に如かず。

——「漢書」

* 経験は最良の教師である。ただし授業料が高すぎる。——カーライル

——「カーライル」

* 経験は授業料の高い学校であるが、愚者は他の学校では学ぼうとしない。——フランクリン

——「フランクリン」

イギリスの諺

*



私は私の足を導いてくれるただ一つのランプを知っている。それは経験というランプである。——パトリック・ヘンリー

* 経験というものは、ひとが知識において進めば進むほど、その必要を感じさせるものである。

——デカルト

* 経験を積んだ人は、物事がこうであるということを知っているが、なぜそうであるかということを知らない。——ハイデッカー

*

人間が賢くなるのは、経験によるのではなく、経験に対処する能力に依じてである。——ショー

*

人間は他人の経験を利用するという特殊な能力を持った動物である。——コリングウッド

*

どんな人も、他人の経験によって学びとるほど利口ではない。——ヴォルテール

*

蛇に咬まれた者がどんな苦しみを受けねばならないかは、自ら蛇に咬まれたことのある者にしかわからない。——キェルケゴール

*

一度へびに咬まれると、ほろ紐にもびっくりする。——ローデシアの諺

*

経験は薄情な美人に似ている。彼女を手に入れるまでには幾年もの時がたち、いざ彼女が身をまかせた段になると、二人とも年老いてしまっただけ、もうおたがいに役にはたたなくなっている。——ベルネ

〔恩（義）〕

恩を受けた人はその恩を心にとめておかなければ

私は私の足を導いてくれるただ一つのランプを知っている。それは経験というランプである。——パトリック・ヘンリー

——パトリック・ヘンリー

* 経験というものは、ひとが知識において進めば進むほど、その必要を感じさせるものである。

——デカルト

* 経験を積んだ人は、物事がこうであるということを知っているが、なぜそうであるかということを知らない。——ハイデッカー

*

人間が賢くなるのは、経験によるのではなく、経験に対処する能力に依じてである。——ショー

*

人間は他人の経験を利用するという特殊な能力を持った動物である。——コリングウッド

*

ばならないが、恩を与えた人はそれをおぼえていくべきではない。——キェロ

*

あまり性急に恩返しをしようにするのは、一種の忘恩行爲だ。——ラ・ロシュフコー

*

新たに恩義をあたえて、それによって昔のうらみを忘れてもらえると考えられるなら、それは大まちがいである。——マキアベリ

*

恩恵を受くるは自由を売ること。——シルス

*

何びとにも恩恵を施す者は、他人より愛さるるよりも多く己れを愛す。——アリストテレス

*

謝恩の念は、牛乳に似て、それを入れる容器がきわめて清潔でないと、腐敗しやすい。——グー尔蒙